

平成 29 年 4 月吉日

企業の皆さまへ

事業趣意書（ご協賛または広告掲載のお願い）

謹啓

貴社におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より特定非営利活動法人 研究実験施設・環境安全教育研究会（REHSE（<http://www.rehse2007.com/>））の活動に関しまして、格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。ごぞいます。

私ども REHSE では、下記の新事業を展開しております。成人前の早い時期に、モチベーションの高い公衆の構成員（高校生）が自主的に環境安全やリスクに関して研究し、彼ら自らの言葉で意見発信する機会を提供したい、その活動を産学連携の形態で支援したい、を趣旨とする活動です。研究活動を実施する高校生の支援のみならず、彼らを現場で指導し、直接的なサポートをされる高等学校等の先生方への教育活動支援（技術支援、情報提供等）も本事業の視野に入っております。

活動 5 年目となる平成 29 度は、初年度（参加校 6 校）、2 年目（参加校 7 校）、3 年目、4 年目（参加校 10 校）の規模をさらに拡大して実施することを目指しています。

下記が本事業（平成 29 年度）の概要となります。本趣旨をご理解いただき、御社の CSR 活動の一環としても、是非本事業へのご参画、ご支援を賜りたく、ここにお願いを申し上げます。

謹白

特定非営利活動法人 研究実験施設・環境安全教育研究会
理事長 大島義人

記

事業概要

1. 事業名称

平成 29 年度「高校生による環境安全とリスクに関する自主研究活動支援事業」
(<http://www.rehse2007.com/KoukouseiShienH29.html>)

2. 趣旨

義務教育を終え、自主的に思考し各々の意見を発信することができるレベルにある高校生が、身のまわりの環境安全やさまざまなリスクを自身の問題として捉え考えるための研究活動を支援します。具体的には、高校生自らが環境安全やリスクに関連のある研究テーマを決め、調査等の研究成果を報告書としてまとめ、発表し、相互に意見

交換する活動を支援します。

3. 主催：特定非営利活動法人 研究実験施設・環境安全教育研究会（REHSE）

4. 共催：公益社団法人 日本化学会

5. 事業の概要

研究のテーマとして、「化学物質」「生物・バイオ」「環境」「その他」のキーワードが設定されています。それぞれのキーワードで、利用、安全、リスク、管理等に関する研究テーマを高校生自身が設定し、高校生 3 名以上のチームによる主体的な研究活動として取り組んでいただきます。

REHSE は、高校生の研究活動に活動支援金（審査により支援額を決定）を支給し、REHSE 会員（学識経験者）が研究活動を支援します。活動支援金は、書籍購入、施設見学に伴う旅費、専門家へのヒアリングや出前講義の実施などに伴う旅費や謝金、消耗品購入、印刷代、通信費等に使うことができます。

研究成果は、指定の様式の報告書にまとめて 11 月と 1 月に提出していただき、2 月の最終審査の結果、3 月に東京大学で開催される研究成果発表会出場校を選定します。出場校の指導教員 1 名と生徒若干名を招待し、発表会（公開）では最優秀賞などの表彰を行います。

スケジュール：

6 月 参加校決定、 自主研究活動を開始、第 1 期活動資金を支給

11 月 中間報告書の提出、第 2 期活動資金を支給

1 月 最終報告書の提出

2 月 審査会にて優秀校を選考

3 月 優秀校成果発表会、表彰、合宿（大学研究者指導による実習や施設見学）

6. 運営体制

REHSE 会員である大学・研究所の研究者、企業の研究者、技術者が、実行委員、審査委員を務め事業を運営しています。

REHSE 事務局内に、当事業の事務局を置いています。

7. これまでに本事業を支援していただいた企業

三進金属工業株式会社／株式会社ダルトン／ヤマト科学株式会社／アズビル株式会社／株式会社岡村製作所／三友プラントサービス株式会社／グロービック株式会社／株式会社重松製作所／島津エス・ディー株式会社／富士電機株式会社／株式会社千代田テクノル／長瀬ランダウア株式会社／株式会社鈴木商館／日本科学技術振興財団／K C コンサルティング株式会社／株式会社日本環境調査研究所／株式会社堀場製作所

8. 平成 28 年度の結果

<最優秀賞>

◎埼玉県立不動岡高等学校（埼玉県）

「会の川 環境・水質調査」

<優秀賞>

◎福島県立福島高等学校（福島県）

「福島県内外の高校生個人線量調査」

◎エクセラン高等学校（長野県）

「長野県の自然界に放射性 Cs はどのように存在するか、その環境リスクについて ～コケ・キノコ植物を通して～」

<発表会参加高校（順不同）>

鳥取県立倉吉東高等学校（鳥取県）

「環境水中のフッ化物イオンを除去する吸着剤の検討に関して」

—ガラス発泡体を利用して—

大阪府立千里高等学校（大阪府）

「銅と硝酸との反応について」

—大気汚染物質である 窒素酸化物の生成反応について考える—

愛媛県立松山東高等学校（愛媛県）

「松山市とその周辺の水質調査」 —きたないところはなぜきたないのか—

高槻高等学校（大阪府）

「水素水の効果」

八戸工業大学第二高等学校（青森県）

「放射性廃棄物の処理について」 —廃棄物の減量と将来の課題—

東京都立戸山高等学校（東京都）

研究課題名① 宇宙開発に向けた放射線の防護

研究課題名② 持続可能な微生物燃料電池の開発

石川工業高等専門学校（石川県）

「水質汚濁と近隣河川の水質調査」

参考

平成 27 年度最優秀賞：エクセラン高等学校（長野県）

「福島原発事故以降、長野県での放射能の影響」

—なぜ野生きのこ・山菜・野生動物肉について

放射線が検出されるのか？—

平成 26 年度最優秀賞：麻布高等学校（東京都）

「雨水が河川水となるまでの過程についての研究」

平成 25 年度最優秀賞：八戸工業大学第二高等学校（青森県）

「放射線を利用した発電は可能か」